

私の一文字

国際交流委員会
委員長
茂木 修

キッコーマン
取締役専務執行役員



「創り」潔く成長させる

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今月は、茂木修国際交流委員会委員長にご登場いただきました。

岡西 今回選ばれた「創」には「りっとう」が含まれています。刃物で切り込み、創り出す意が込められた部首なのですが、今回、三角形のような形でこれをしたためました。拡大、発展、成長につながるような広がりイメージしています。

茂木 潔さを感じる書ですね。後には戻れないという潔さです。私は料理が好きなのですが、食材を切る瞬間も同様で、切れ目を入れると修正できません。実は調味料も同じで、足し過ぎると引けなくなる。そこに通じるものを思いました。

岡西 まさに潔さを表現したくて、竹製の筆も使いました。伝わってうれしく思います。何かを創ることはもともと好きだったのでしょか。

茂木 昔から料理をしたり絵を描いたり、創り出すことが好きでしたね。料理は今も好きで、よく作っています。他に創造的なことでいうと、モノクロの写真を日々撮りためていることも含まれるでしょうか。色のない世界で色を表現するのが面白いと思っています。

岡西 書道も白黒の世界なので、モノクロの写真は私も興味があります。一方、仕事では世界各国でその国にあった醤油文化を創ってこられたと思うのですが、どういうことを意識して取り組まれたのでしょうか。

茂木 海外は元々は醤油がなくても誰も困らない国や地域です。まずは醤油を味わって買ってもらい、自宅での料理に使っておいしさを感じてもらう。おいしさを普及するためにレシピを作る、調理機会を増やすといったことを地道に積み重ねてきました。

岡西 海外に行ったとき、醤油があるか、と聞いたら「キッコーマンならある」と言われたのがすごく印象に残っています。

茂木 ブランド浸透にも力を入れてきたので、そうした認知はうれしいことです。コロナ禍で海外では家庭向けの売上が増えたのですが、ブランドの力を感じました。アジア、インド、アフリカと、これから人口が増えていく地域に今後注目しています。醤油をおいしいと思う人が増えたらうれしいですし、最終的には世界中の家庭の食卓に並べていきたいと思っています。

岡西 最後に、経済同友会では国際交流委員会の委員長を務めていらっしゃいますが、今後の展望を教えてください。

茂木 ここ30年ほどかけて国際協調が進み、世界中が豊かさに向かう時代が進んできたと信じていました。しかし残念ながら、今それが崩れてしまっています。その中で、われわれ企業はどのような貢献ができるのかという視点を持ちながら、世界の人々との意見交換を大事にすること。できれば関係が悪化している国とのコミュニケーションも切らさずに、われわれができることをしっかり見極めていけたらと思います。



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。